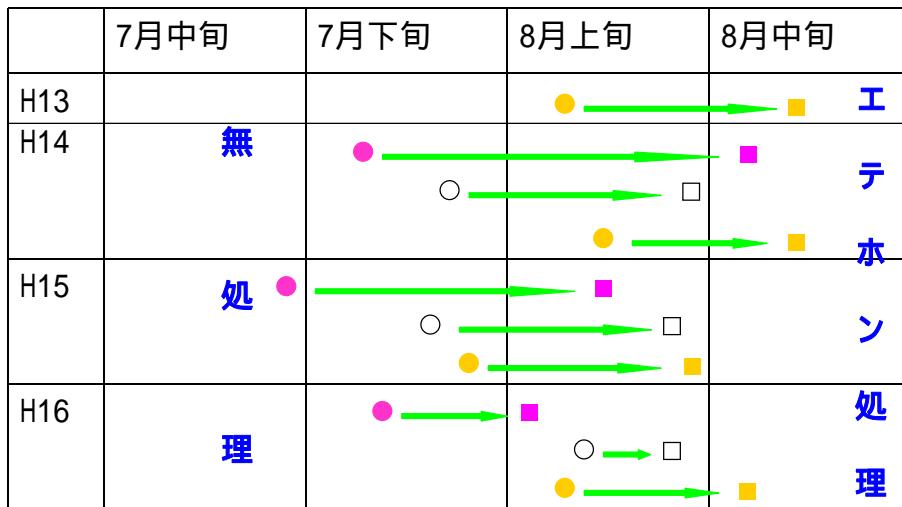


小ぎく「アイムム」シリーズへのエテホン処理による開花調節効果

岩手県内では、りんどうに次ぐ花き品目として小ぎくの栽培面積が増加しています。県では、本県の立地条件に適合したオリジナル品種「アイムム」シリーズをこれまで12品種育成し、普及を図っています。

そこで、「アイムム」シリーズの中でも早期に開花する「アイムムパープルレッド」「アイムムアーリーホワイト」「アイムムアーリーイエロー」へのエテホン液剤（商品名：エスレル10液剤）の処理による開花調節効果を明らかにしました。



●■パープルレッド ○□アーリーホワイト ●■アーリーイエロー

図1 「アイムム」シリーズへのエテホン処理による採花盛期の変動（平成13～16年度）

エテホン200ppm溶液（エスレル10液剤500倍希釈液）を摘心時及びその10日後に2回処理することにより、無処理と比較して、「アイムムパープルレッド」では8～20日、「アイムムアーリーホワイト」では6～13日、「アイムムアーリーイエロー」では9～12日採花盛期が遅れます。

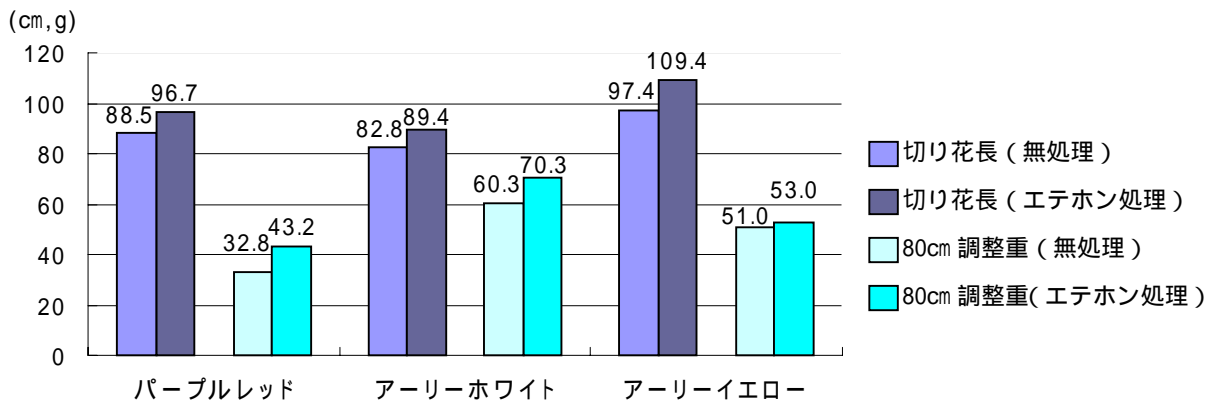


図2 「アイムム」シリーズへのエテホン処理による切り花品質の変動（平成16年度）

エテホン処理により、切り花長、調整重等の値が大きくなり、品質向上効果があります。